

吹田西ロータリークラブ ウィークリー



ロータリーの未来は
あなたの手に
THE FUTURE OF ROTARY
IS IN YOUR HANDS

2009～2010 — 創立30周年 —

■ 創立 1980.6.12
 事務所 ☎564-0051 吹田市豊津町9番40号 江坂東急ビル1F
 ☎(06)6338-0832 FAX(06)6338-0020
 URL http://www.suita-west-rc.com
 例会場 江坂東急イン
 ☎564-0051 吹田市豊津町9番6号 ☎(06)6338-0109
 例会日 毎月曜日 18:00～19:00
 役員 会長：仲辻 章 幹事：清水大吾 会報委員長：岡 信行

4つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

～伝えつなぐ30年 笑顔一杯～ “たしかなこと”

■ 第1372回 例会 平成22年 5月17日 ■
 ■ 卓話「我ゴルフ人生」 ■
 ■ 花屋敷ゴルフクラブ 紙谷 弥一郎 様 ■
 ■ 榎谷パスト会長ゲスト ■
 ■ 今週の歌 「我等の生業」 ■

先週内容

会長挨拶

仲辻会長



先週末からギリシャの金融危機を引き金として、世界的に株価が下落し、各国の通貨も乱高下しています。

株式の暴落は、1953年スターリン死去による暴落、1989年ブラックマンデーの暴落、近くは日銀の総量規制による暴落、リーマンブラザーズ倒産による暴落

そして、先週のギリシャ金融危機による暴落です。私事で恐縮ですが、23才位から株式取引（マージンではなく実株取引）をしてきましたので、これらの暴落を一応全て経験してきました。

蔵田会員には申し訳ないですが、手ひどい損害を被った人は、二度と再び株式の売買をしない。子々孫々に至るまでさせない。という人もいます。しかし私はそうは思いません。ある経済評論家の話ですが、株式取引を行うに当たっては、

大きくは世界の政治、経済、そして金融の動静。内にあるのは日本の政治、経済、そして金融の動静。さらに個々の企業の業界内の地位、収益力、将来性を見究めて、株価の変動に注視しながら売買を行うことが必要と説かれていた。株式取引によって利益を得るのが第一の目的ですが、二次的にはこの世界、日本についての状況分析に関心が向くというメリットがある。

次週 第1373回例会予告 平成22年5月24日

卓話「30周年記念式典 最終打ち合わせ」
 Weekly No. 1372は島田委員が担当しました。
 Weekly No. 1373は郷土委員が担当の予定です。
 (本日の原稿をお渡し下さい)

主婦が株式取引に関心を持たれるのは、このような分析を行われての上ならば大賛成です。といわれ、大変感心させられたことがあります。日本経済発展の当初では、株式の長期保有によって思わぬ利益を生ずることがあります。ただ今後は大変難しいと考えます。

幹事報告 清水幹事

- 理事会報告 (4月度・第11回)
 - 7月度卓話プログラム及び、5月度卓話プログラムの変更が承認されました。
 - 春の移動家族例会の清算が承認されました。
 - 新しいバナー100枚の発注が承認されました。
 - すいた環境教育フェア2010へ、1万円を協賛寄付することが承認されました。
- 大阪ユニバーサルシティRCより、児童養護施設で集団生活を送る幼い子供たちと一対一で手をつなぎ、家庭的な心の触れ合いを目的とした「第9回ロータリーX'mas in USJ」参加の案内が来ておりますので回覧致します。

ゲスト 榎原委員

米山奨学生 インディカ・ポーゴダ様

出席報告 伊藤委員長

- 会員数 49名 ● 来客 1名
- 出席会員数 40名 ● 本日の出席率 90.91%
- 4月12日の出席率(メーキャップを含む) 100%

5月誕生月 会員・会員夫人 祝



30周年実行委員会

小林副委員長

本日、式典部会組織表(改)を配りました。6月5日(土)～9日(水)まで、海外からの招待客が約40名滞在します。特に国際部会に配属された会員の方々は、その間のスケジュールの確保をお願いします。5月24日の例会時に詳細ミーティングを行います。

ニコニコ箱

本田副SAA

◆瀧川会員

吹田市観光協会が設立されました。また仕事が増えました。よろしくご協力下さい。

◆新井会員

結婚祝いの品ありがとうございました。

◆榎谷会員

75回目の誕生日祝ありがとうございました。

◆吉田会員

連休に中国張家界(ちょうかかい)の世界自然遺産武陵源(ぶりょうげん)世界一のロープウェイが開通した天門山(てんもんざん)に行ってきた。

本日のニコニコ箱 12,000円
累計のニコニコ箱 984,000円

卓話

「PTA活動の取り組み方」学校～保護者～地域

紙谷会員



私は平成14年からスタートし平成21年度までの間の6年間の江坂大池小学校のPTA活動をしました。

こどもの運動会や参観日にも顔を出したことがなかったのですが、私の場合歴代PTA会長が友人であったり、仕事上お付き合いをさせていただいてる方であったりと複雑であった為、どうしても引き受けざるをえなかったのが実情です。「頼られているうちが花」と諸先輩方からも教わり、またPTA会長は地域の各種ボランティア団体との交流もあり、自分を売り込むにはもってこの場所でした。でも実情はなり手がということでした。

PTAとはParent Teacher Association 規約では各学校ごとに組織された保護者と教職員による教育関係団体。保護者と、学校に勤務する教員及び職員と協力して、家庭と学校と社会における児童の健全な成長をはかることを目的とする。

その目的をとげるためにどのような活動をするかといいますと、①児童の生活指導・福祉向上に努める。②教育環境の整備。③よい父母・よい教職員となるよう努める。とあります。

このよい父母、よい教職員とは……これは親と教職員が良好な関係を築くこと(仲良く)

また、本来PTAは任意で参加する団体でありながら特に入会申込書もなく、いきなり会費を徴収したり、会費を一律でなく寄付金のように一口単位で徴収するケースがある。

これはPTA規約でこどもが入学したらその保護者はPTA会員と位置づけ、ほぼ強制的に会費を振り込ませているのが実情です。この理由として、日本のPTAはアメリカの自発的に作られたものと違い、第二次世界大戦後に連合軍より、半強制的に導入されたことで、日本のPTAは自由意志でなく、義務や強制に奉仕活動をさせられているという意識が強いということで、このようなこともありPTA役員や運営委員に立候補される人はまずいないですし、勧誘にいくようなことがあったな

ら門前払いが多いです。何とか3～4回と訪問し、やっと「誰々がやるなら私も考える」とか「あの人がやるならしません」とか、ボランティアとはいえ無責任な親が多いです。当然幼児がいるとか、介護老人がいるという申告に対しては候補から除外されるわけですが、昔に比べ児童数が減少したこと、共稼ぎの家庭が増えたことで、PTA活動がしづらい状況になっている親が増えたのではと思います。

このような参加できない保護者や参加してこない保護者が増えて参りますと、当然学校の教育方針や指導内容、それにPTA活動に理解しようにもできないというか、人ごとというか、無責任な親が増えているように思います。

このような事から問題視されているのが、最近マスコミで取りざたされているモンスターペアレントです。自分のこどもの担任に問題があれば学校にいきなり来たり、こどもが学校で怪我をしたならば校長に対して保障問題の話を直接したりと、わけのわからない親が増えていきます。又、日常でも色々あり、たとえば、参観日の授業中にその教室の前で騒いでいる親、運動会の昼食時に運動場でたばこを吸っている親、家庭でのこどもの教育はどうされているのかを考えてしまうことがあります。

それと共稼ぎは仕方ないとしても、非協力的な保護者が増えたことにより、PTA会員だけでは守れなくなったのがこどもの交通事故、不審者対策による安全確保、そして親による虐待です。虐待については特に私の学校ではなかったようですが、平成13年の大阪教育大学附属池田小学校の事件を機に、どこのPTAも力を入れることになりました。どちらかといえば、今まではこども達のいじめ・不登校・非行・引きこもりに力を入れてきましたが、このあたりからこどもの校外生活の指導と地域の教育環境改善のための活動が増えてきました。

学校と家庭と地域が協力し合う関係を築き、充実させることを口うるさいくらいにうたえています。よく言うのが「あなたのこどもが誘拐された。当然警察には動いてもらうが、PTAだけでは何もできない。こんな時に地域の方々と普段から密接な関係を築いていればどんなに助かるでしょう」と説明をします。

10年ほど前から教育方針が「つめこみ教育からゆとり教育」(週休二日制)になったことにより始まったのが、サタデースクールと呼ばれるもの。月に一度の土曜日に、地域の老人の会の方々や地域団体の方にお手伝いいただき、将棋や昔遊びを教わったりしています。また毎週水曜日は早く学校が終わりますので、授業が終わり夕方までの間、フレンドさんという地域のボランティアの方に見ていただき、グラウンドを開放しています。

また、こどもの登下校や休日には、こども見守り隊という地域ボランティアで構成された団体を結成し、特に朝の登校時のこどもの安全確保と、不審者の犯罪防止の一環として校区内に日々25名くらいの方々が街角に立ち誘導していただいています。

これは安全確保と不審者の犯罪防止の一環ではありますが、一番のねらいは「挨拶のできるこどもに育てる」ようはコミュニケーション能力を高めることです。またこの見守り隊の方々には「地域のこどもは地域が守る」という合い言葉で活動いただいています。

こうした協力関係の架け橋としてPTA活動を行って参りました。

最近、国によってはPTCA (Parent Teacher Community Association) =保護者・教職員・地域社会という組織を置く学校もでてきました。